

## 参考資料2

### 【用語説明】

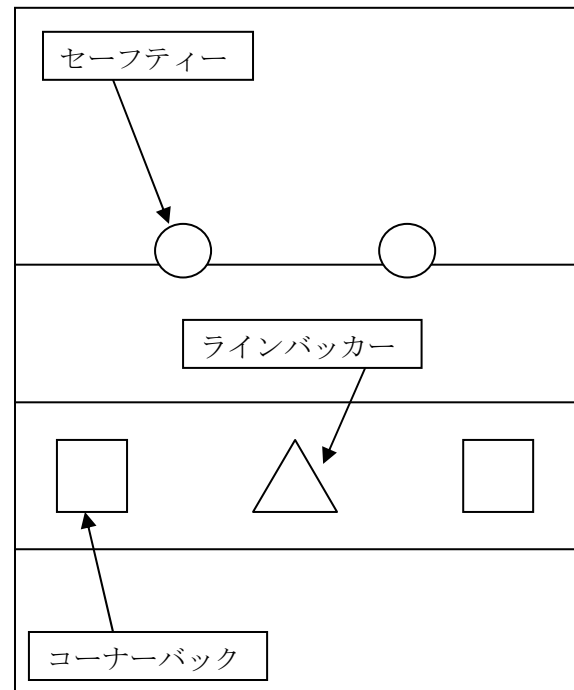
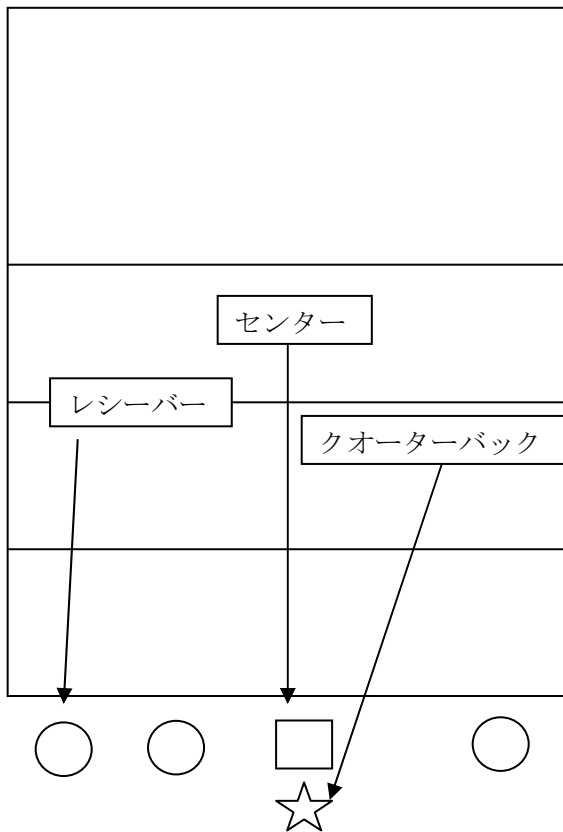
- ・**スクリーンライン** オフェンスのスタートライン。そこにボールを置いてプレーを始める。
- ・**タッチダウン** エンドゾーンにボールを入れて、得点を得ること。
- ・**ボールテッド** 一回の攻撃が終了すること。
- ・**ブロック** ボール保持者が走るコースをディフェンスから守ること。バスケットボールのスクリーンプレーに近い。
- ・**インターセプト**  
ディフェンスがクォーターバックの投げた前パスをキャッチすること。インターセプトすると、即攻守交替。
- ・**フリッツ**  
ディフェンスがプレー開始後にレシーバーのじゃまをしに行くのではなく、クォーターバックのフラッグを抜きに行くこと。
- ・**ランプレー、パスプレー**  
プレー方法には二種類ある。クォーターバックからスクリーンラインより手前でボールをもらい、そのまま走りぬけるプレーをランプレー。また、スクリーンラインを超えて、パスをもらうプレーをパスプレーという。

### 【ポジションの名前とその役割】

センターとクォーターバックの位置は固定。それ以外の並び方は一例。

#### \*オフェンス\*

#### \*ディフェンス\*



## オフェンス

**クォーターバック**：「セット ダウン ハット」の声をかけて、ボールをセンターからもらい、パスをしたり手渡したりする。このポジションがミスをする、ゲームが全く前に進まない。第一ターゲットは決まっているが、ディフェンスの動きによってパスできないこともあり、状況を見て判断せねばならないことが多い。**オフェンスの要なので、視野が広く、ボールを思ったところに正確に投げることができる子どもが活躍できる。**

**センター**：はじめにボールを持ち、地面につけてセットする。クォーターバックの掛け声でボールをクォーターバックに渡す。センターとクォーターバックの連携は不可欠。ボールを渡してからのスタートなので、他のレシーバーより多少はじめての動きが遅くなる。後はレシーバーと同じ動き。

**レシーバー**：ボールが地面から離れたらプレーブックで決まった動きをして、パスをもらったり、フェイクで相手をだましたり、ボールを持って走ったりする。第一ターゲットは決まっているが、状況により、誰にパスされるか分からない。基本的にクォーターバックを見て動く。**様々な動きがあるので、キャッチが得意な子、走るのが得意な子、ボールを隠すマネが上手な子など、活躍の場は多い。**  
**また、他のボール運動で、何をしたらよいか分からず突っ立ったままの児童もやることから明確なので、入しやすい。**

## ディフェンス

**セーフティ**：この人の後ろを守る人がいないので、この人がかわされると即タッチダウンされてしまう。いわば最後の砦。ロングパスや、走ってくる人をここで完全にとめなければならない。**ディフェンスの要なので、視野が広く、クォーターバックとボールの行方をしっかり追える冷静な子どもが活躍できる。**

**ラインバッカー**：クォーターバックの動きを瞬時に察知し、パスをカットしに行ったり、ブリッツ（注）にいたり、攻めるディフェンスをする。**瞬発力があったり、野生の感がある子どもが活躍できる。**

**コーナーバック**：クォーターバックの動きとボールの動きをしっかりと見て、ラインバッカーと連携して動く。動きは基本ラインバッカーと同じだが、ラインバッカーよりも少し保守的。「このエリアは私のエリア。ここに入ってきた獲物を狙う！」という感覚が大切。「**この場所を守ればいい**」という大体の目安があるので、比較的守りやすい。

## 【パスコースの例】

今回授業で行った基本的なパスコースを紹介します。子どもたちは、このパスコースを組み合わせたり、独自のコースを考えたりして、プレーブックを作りました。

